

# 上期合材製造167.2万トン 3年連続で出荷数量減

日合協東北概況

日本アスファルト合材協会(日合協)東北連合会は、2025年度上期(4～9月)の東北6県アスファルト合材製造数量が前年同期(7～9月)の全体数量7・6%減の167・2万トンになるとの概況を公表した。新規合材は19・4%減の49・3万トン、再生合材が117・9万トン(前年同期比1・6%減)。第2四半期(7～9月)の全体数量は9・2%減の90・8万トン、新規合材は26・7万トン(23

・8%減)、再生合材が64・1万トン(1・4%減)だった。

過去3カ年連続して出荷数量が前年を下回り、3年前と比較して25%減と窮状が続く。原価や労務費の高騰で発注規模が縮小傾向にあり、予算に限りがある中で災害対応などにも必要になる。日合協東北は「(製造数量の減少は)業界の存続に関わってくる。発注者には引き続き、安定した事業量の確保を要望したい」と話している。

上期の製造数量全体での県別内訳は、青森24・0万トン(19・1%減)、岩手26・7万トン(4・9%増)、宮城33・1万トン(11・9%

減)、秋田23・7万トン(1・7%増)、山形19・4万トン(8・6%減)、福島40・3万トン(7・9%減)となった。東日本高速道路会社の修繕工事などの出荷量減少が影響しているという。

青森は東青地区(42%減)と三八地区(23%減)の出荷減が大きく、津軽地区(20%減)では風力発電工事の終了が影響している。

岩手では、宮古・釜石・遠野地区(17%増)で数年続いた工事発注減の反動で増加した。宮城は県北(27%減)と石巻・気仙沼(36%減)の2地区で厳しい状況。高速道路修繕工事や港湾工事の出荷減が要因とみられ

る。

秋田は鹿角・北秋田・山本地区(34%増)と仙北・平鹿・雄勝地区(20%増)は、大型民間工事や高規格道路と関連工事で前年度から出荷増。山形は最上地区(10%減)での河川災害への予算重点が影響した。福島では県北(9%増)が前年同期から増加したが、同地区を除いて道路関連の大型発注が少なく県全体では減少した。

